

私たち世代の責任

浦安市議会議員

おりもと 折本たつのり



初めての一般質問、本会議を終えて

令和元年6月26日、自身初めてとなる一般質問（令和元年第2回定例会）を行いました。一時間の持ち時間でしたが、あっという間に終わってしまいました。傍聴の方も大勢お越しください、ありがとうございました。

質問内容は、

1. 音楽ホールについて
 2. 子ども図書館について
 3. 公共サービスの利用料金の値上げについて
 4. マーレ「チャレンジ・ショップ」について
 5. 歴史・公民教科書採択について
- でした。

1. 音楽ホールは、市職員主体ではなく公正な第三者による委員会を新たに設置し、市が161.4億円とした廃止コストを試算し直すべきではと聞きましたが、市にその考えはないとの答弁でした。30年の賃借契約で3年しか使っていないのに、解約したら違約金として家賃共益費相当53.3億円、代替施設に79.9億、そんなバカな話があるわけありません。通常は次のテナントを見つけるのに必要な期間の賃料相当が違約金になるとのことですが、音楽ホールは次のテナントを見つけ



るのにあと27年もかかるのでしょうか。全額の違約金は、公序良俗に反して無効との判例もあり、それらの法律知識を有する専門家を交えた検証委員会を設置すべきと主張したのですが、検討していないとの答弁でしたので、検討して頂けるまで質問致します。

2. 子ども図書館については、読書活動を推進するという市の目的のために子ども図書館をつくる必要性について聞きましたが、説得的な答弁はありませんでした。これから我が市で17歳以下の人口は減少し、2017年から2030年にかけて、元町の子供は増える一方、中町新町は減少、新町では3分の2に減少します。こうしたなかで、新たな箱物の図書館を、しかも子供が減る新町につくる意味があるのかと聞きましたが、要領を得ない答弁でした。市民の税金を150億円費やすことになった音楽ホールの二の舞にだけはならないように、引き続き当局に慎重な対応を求めます。

3. 下水道使用料や公民館利用料などの公共料金の値上げについては、浦安市よりも財政力の低い市川が値下げしたのに、どうして財政力が豊かな浦安で値上げする必要があるのか聞きました。市長からは、行政サービスの質が異なるので同列に論じることはできないとのこと答弁でした。浦安の市税収入の4/5は個人市民税から成り、浦安は全国でも屈指の市民一人当たりの税収額が高い自治体に入っています。かたや音楽ホールなどに巨額の税金を費やしておきながら、高い税金を払っている市民の公共料金は引き上げるといっては道理に反するのではないと意見致しました。

4. チャレンジ・ショップについては、募集の公開性が担保されていたのか聞きましたが、わずか一件の応募であったとのことでした。ますます疑問が深まりました。

た。駅前ロータリーに面した一等地の立地を活かし、通常の貸店舗として貸し出せば、高い収入＝市の財源が得られるのではと聞きましたが、行政財産なのでそれはできないとの答弁でした。ただ単に用途変更すれば良い話ではないでしょうか。これからの行政運営は、ただ市民の税金を費やす、受益者負担を求めるというだけではなく、行政財産の戦略的活用による収益努力が必要ではないかと申し上げました。

5. 最後に教科書問題については、時間切れでほとんど聞けませんでした。我が国の皇室を中心とした国柄や伝統文化に自信と誇りを持てる教科書採択を強く市当局に求めました。また市の答弁によって、浦安市教育委員会の教科書採択会議における議事録が公開されることが明らかになりました。

浦安市教育委員会、教科書採択会議の議事録を公開へ！

この度の私の一般質問での答弁により、これまで秘密会とされてきた教育委員会教科書採択会議の議事録が公開されることが明らかになりました。歴史・公民教科書採択における画期的な進展です。これによって、採択会議の議事録が明らかになれば、市教育委員会での最終的な採択に至る議論の内容が確認でき、それに対する検証が可能になります。我が国の歴史に誇りを持てる教科書の採択に向け、ようやく次のステージに進むことができます。



6月議会を終えて

第2回定例会（6月議会）が終了しました。当選後、初めての議会で、不手際や粗相もありましたが、多くの事を学ばせていただきました。

議員の皆さん、それぞれのお立場でそれぞれの思いがあることが分かりました。また当局の皆さんも、それぞれのお立場で職務に精励しておられることもわかりました。

批判をするまえに現状を学ぶ、自分の意見を言う前に他人の意見を聞くことの大切さを改めて認識しました。

しかしそれと同時に大切な事は、孤立する事を恐れないこと。自己の良心に忠実であることだという信念は変わりません。

音楽ホールの問題も、別に前市長に怨みがあるから批判しているのではありません。音楽ホールによって、市民の財産と将来への機会が失われたと思うから、義のために言わざるを得ないのです。

しかし、批判ばかりしていても前には進めません。浦安の新しい成長戦略をいかに描き実行するか、そのプランがなければ、政治家として真に責任ある態度とは言えません。そのためには当局と協力し、他の議員を巻き込み、現実的な着地点を見出しながら、事を前に進めて行かねばなりません。先輩議員の質問を聞いて、なるほどさすがと思わされることもありました。

二元代表のもとで、当局への批判的な視点を持ちながら、同時に建設的な政策を前に進めていくための協調をいかに保つかという葛藤を感じた本議会でした。

これからも、一層精進してまいります。

折本龍則

えとうせいいち 衛藤晟一さんを応援します！



私、折本龍則は、7/4告示、7/21投票の開票の参院議員選挙において、衛藤晟一えとうせいいちさんを応援いたします。衛藤さんは、皇室を最も大事にされている政治家です。先のご譲位に際しては、元号の事前公表に最後まで反対され、前もって新帝陛下のご聴許を得るよう安倍首相に働きかけられました。また昨今の皇位継承に関する議論でも、男系皇統の護持に断固たる姿勢を貫かれています。そんな衛藤さんを尊敬し、日本のために、是非とも当選して頂きたいと願っております。

プロフィール

昭和59年（1984年）浦安市堀江出身、富岡保育園、いまがわ学園、吹上幼稚園出身、日の出小学校・中学校卒業、早稲田大学高等学院卒業、早稲田大学政治経済学部卒業、早稲田大学雄弁会幹事長、浦安市議会議員1期目